



群馬県太田の上空約3000mで撮った積乱雲の頭の団塊構造、大きい塊は500m程度、ごく小さい塊は10~20m位か。  
(朝日新聞社提供)

——< 目 次 >——

表紙写真	定点観測船の交代	中央気象台定点観測部	
口繪写真	雷雲への招待	朝日新聞社提供	表紙 2
<b>雷雲への招待</b>		畠 山 久 尙	1-3
解説    <b>輻射線図の応用</b>		関 谷 溥	4-11
<b>ヨーロッパの気象台を巡って</b>		佐 貫 亦 男	12-15
<b>報</b>	<b>海鳴とその強度</b>	小 川 善 朗	16-18
	<b>飯田地方の霧とその予報</b>	吉 沢 保 照	19-21
	<b>P.T 偏差図と東北地方の長期予報について</b>	相 樂 正 俊	22-26
<b>速報</b>	<b>台風第15号の経過概況と洞爺丸遭難当時の函館付近の気象</b>	佐 々 木 良 一	27-28
	書評    <b>雪の科学</b>		21
	定点観測業務		表紙 3